

ウラナミジャノメの幼虫を メリケンカルカヤから発見

近 藤 伸 一

ウラナミジャノメの野外での食草はほとんど知られておらず、過去にカヤツリグサ科の一種ヒカゲスゲに似たカヤツリグサ科の一種及びササクサからの3例から幼虫が確認されたにすぎない。1987年7月26日明石市松蔭新田でメリケンカルカヤの葉上にウラナミジャノメの中令幼虫(体長7mm)を発見した。幼虫のいた場所は乾燥した尾根部(成虫がよく活動する明るい広場から約100m程離れている)の山道に面した所で、モッコク、ソヨゴ、コバノミツバツツジ等に覆われた日陰に生えているメリケンカルカヤのたれ下った葉の先端の裏側に幼虫は静止しており、4枚の葉に食痕がみられた。当日は晴天で、午後3時頃であったが、この場所はかなり暗く、F・2.5 S・1/8で写真撮影したが光量が不足した。

メリケンカルカヤは北アメリカ原産の多年草で、戦後名古屋を中心に全国的に広がったもので、ウラナミジャノメの本来の食草でないことは明らかである。当地のイネ科植物ではメリケンカルカヤの勢力が最も強く、カヤツリグサ科の植物も近くの湿性地には数種自生している。付近を3日間にわたり調査したが他に幼虫を発見することは出来なかった。またこの調査に先立ち、成虫の産卵する6月下旬にも卵の調査を行ったが、発見することは出来なかった。

なお当地にはウラナミジャノメとヒメウラナミジャノメの両種が棲息しているが、成虫の発生時期は少し異なっているので両種の採集・目撃記録を参考までに次表に記す。本稿を草するに当たり、調査に同行していただいた浅田卓、食草を同定していただいた広畑政己の両氏にお礼申し上げる。

表1 ウラナミジャノメ、ヒメウラナミジャノメの採集・目撃記録

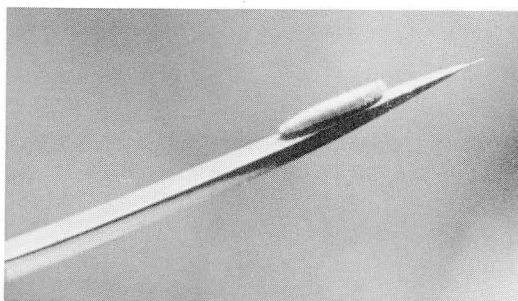
月 日	ウラナミジャノメ	ヒメウラナミジャノメ
1987. 6.14	2♀ 5♂ 新鮮	2exs 汚損
6.21	2♀ 4♂ 5exs	0
6.27	3exs 汚損	0
6.28	2♀ 3exs 汚損	0
7.25	0	5 exs 新鮮
7.26	1 幼虫	8 exs 新鮮
8. 2	0	2 exs 新鮮



幼虫の発見場所(指をさしている所)



メリケンカルカヤの幼虫(矢印)



幼虫の拡大

〈参考文献〉

- 福田晴夫ほか(1984)原色日本蝶類生態図鑑(Ⅳ) (保育社) 大阪
長田武正(1984)野草図鑑3 (保育社) 大阪

S hinichi Kondo

神戸市西区